

## 平成27年度第3回名張市快適環境審議会会議録（概要）

1. 開催日時 平成28年3月23日（水） 午後2：00から4時30分

2. 開催場所 名張市役所2階 庁議室

3. 出席者

委員 朴 恵淑  
清水 敏代  
森田 宏  
田畑 博  
辻森 保藏  
福田 尚子  
福廣 勝介

事務局 生活環境部長 藤岡 善光  
生活環境政策室長 関森 弘康  
環境対策室長 藤野 泰司  
環境対策室副室長 岡田 隆之  
生活環境政策室 平尾美津代

4. 欠席者

委員 加藤 進  
今村 洋子

5. 内容

(1) 会長あいさつ

(2) (仮称) 第三次なばり快適環境プランについて

①修正案の説明

②環境像、施策の体系について

次回審議会の開催について

その他

## 平成27年度第3回名張市快適環境審議会会議録（概要）

### （1）会長あいさつ

#### ○会長

皆さまこんにちは。早くも第3回目になりますが、最初、亀井市長から委嘱をいただいた時は、時間が足りないかと思いましたが、皆さまのおかげで、この時点で、ほぼパブリックコメントを出せば良いという感じまで出来ました。本当にありがとうございます。たたき台の3ページの名張らしさの、望ましい環境はどういうふうにイメージしたらいいのか、そういうところにソフトランディングできるように、その他いろんなところでも前のたたき台に比べると、こういう風になりましたと説明を受けながら、行うことになるとは思いますが、大変いい形で出来ましたし、何より、いろんな形で関わらせていただいている立場から見ると、快適環境プランというネーミングは素晴らしいということで、それはどういうふうに皆さんが、当たり前のように思う良い政策が展開できるのか、もうちょっと力をお借りしてですね、良いものを作り上げたいと思いますので、今日もよろしく願いいたします。事項書に基づきまして、2のところ、まだ仮称のかっこ付けが取れてないところですが、第三次なばり快適環境プランについてなのですが、まず

（1）修正案について、事務局から説明をいただいて、皆さまのいろいろなご意見をいただいた後に、（2）のところの確認にいきまして、どういったイメージになるのか、それからどういう施策の体系で行うのか。あとは平成28年度になりますけれども、より良いものの作成に向けて、皆さまの、名張市民の意見をいただくとか、そういったようなスケジュールも踏まえて、次回いつ開催するのがよいのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。事務局、まず修正案の説明をよろしくお願いいたします。

### （2）（仮称）第三次なばり快適環境プランについて

#### ①修正案の説明

（事務局）資料に基づき説明

#### ②環境像、施策の体系表について・次回審議会の開催について

#### ○会長

ありがとうございました。修正案とともに、二人の委員の方から意見がでていますので、よろしくお願いいたします。

#### ○委員

私自身、15地域からの代表者ということで、桔梗が丘の代表者として初めてこういうプラン作成に携わらせていただいて、地域の中で、我々が生活する上で何が課題かと、私の思ったことを書いていただけですので、解決策は何にも書いていませんので、指摘してください。まず2月16日に最初に口頭で話した内容が、これです。その中でずっと気になっているのは、この辺が近隣、ここでいうと伊賀市ですね、環境問題についてどういう関係です

か、いろんな廃棄物工場がありますし、その辺がどういうふうにして管理・チェックしていくのかということと、⑤の、要するに新しい焼却場がどんどん出来ているんです。それ以前は不燃物焼却場として青蓮寺ダムのつつじが丘の入り口にすごいのがあったんですね。そこに何でもかんでもほうりこんでいった状態です。今は埋め込んでしまって当然下に液やなんかが漏れないようにしていると思いますけれど、経年的にですね、どういうふうになっているのかチェックのしようがない。しかも山から下の方に流れるので、その辺がどういう形かということで、本当になんでもかんでも蛍光灯や電球や全部。私もしばらくずっと名張を離れていて、久しぶりにこちらから大阪の方へ通勤するようになって、その不燃物処理場は、こんな穴を埋めてしまうことを思い出して一応書きました。この辺が今後、後世に大きな課題を残さないようにする。今回、今日も部門に伝えさせていただいたのですが、騒音に対するものは書かれていますので良いです。ソーラーパネルの設置と再生エネルギーということで、いろんなところでソーラーパネルがたっています。果たしてこれが風や台風、採算が合わなければ放っておく。その辺が今後起こりうる、しかもすでに起こっているところがあるかと思います。名張全体を把握していませんが、将来、どう管理するかということも必要ではないかと思います。それと LED の防犯灯ということで、名張には防犯灯と街路灯というものがあります。防犯灯というのは、各自治会が管理して各自治会、自分達の地域の自治会が自己負担金で防犯灯をやっています。桔梗が丘の場合は、LED 化の防犯灯、桔梗が丘の自治会でこの前集計したら、約 1600 個、各議会が出してくれた計算で 30 万という形で、90% 近く進行している。ほかの地域についてもたぶん防犯灯については LED 化がどんどん進んでくると思います。その中で、名張市の LED の防犯灯基準が無いという話。それは今後どうしていくか。それと、街路灯については LED でどこまで明るさをキープできるかそういう専門的なことはわからないんですが、水銀灯中心で、小さな街路灯については蛍光灯もあると思います。その辺をどういうふうにして LED 化していくかということで、ただこれは農村部と団地側と、の関係で、生物、稲だとかの生育具合も全部違うのでその辺も問題になるかと思いますが、この辺今年度どういうふう管理というか、要するに基準を設けていくかということがあるかと思えます。あの、何も解決策は言ってないので、自分がいろんな地域のボランティアに参加して気が付いたことです。こういう問題は、各 15 地域の中ですべてあると思います。15 の地域と一緒にやるというのは問題ないと思うのですが、私の気づかないいろんな地域があると思いますので、基本的に、この快適環境プランというのは、名張の行政のすべての部署にあたって。見れば見るほど怖いです。名張行政の根源なんです、これ。それによっていろんな、今あります教育の問題、都市計画の問題、いろんなものにかかってくると思えます。本当に今後名張市の行政の基本的な大きな施策の基になるのではないかと。それとあと 1 件、今、名張市では、平成 22 年から、学校の適正規模の配置というような形で進みます。去年から、いろんな形で、一貫小中学校という中で、教育施策として出ております。今年から後期ということで、その中で、去年の中でそういうビジョンを作られて、一貫小中学校という形で、これは、各 15 地域で小中学校の需要があるんですけども、桔梗では、メインの小学校をどこに移そうと、大移動という形の中で、そうなってく

るとやはりいろんな通学路、道路の問題等々いろいろ出てきます。広い意味で生活環境、かといってそういう一貫という名のもとに進められる中で、メインの小学校を遠くに移そう、遠くといっても桔梗が丘高校の跡地です。今、その中で通学路等々ですね、いろんな課題が出てきます。もともとそういう一貫、一地域一小中学校の一貫性がいいのかどうか、今後議論が始まるんですけども、だいたい、極端に少ない学校から大きな学校に流れるのはいいけど、大きな学校から少ない学校にもっていこうということで、今、ある意味ではそういう通学路で広い意味で考えれば、小学生の広い意味の、通学路に対する人権の問題になってくるんじゃないかと考えます。だから何を言おうとしているかというのと、一貫の是非は別の会議でやりますけど、そういうことにおいて小学生の環境が変わるという中で、今後ここに、この快適環境に入るかどうかわかりませんが、私の言っている生活環境という中で広い意味で。現場のいろんな形の自治活動をやっていると、そういうことが目につくので、そういうものを含めて、この議題、プランに入れるのかどうか、文言に入れるのかどうかは別として、さっきも言いましたように快適環境プランは基本的な名張の行政施策の根底になるという位置づけで私は考えていますので。その辺のご意見またはご考察をよろしくお願ひしたいと思ひます。

## ○会長

ありがとうございます。それと、あともう一人、引き続き意見をいただいて、そういう意見をどういうふうに盛り込むのか、皆さんの意見をいただきたいと思ひます。

## ○委員

今日は本当は4、5枚書いてこれるはずで、各ページには書いてあるんですが、後日その各項目を書かせてもらったものを、意見として送らせていただいて、いいのでしょうか。

## ○事務局

結構です。うちの方も今年の5月、次の会議ぐらいで一旦、おまとめいただいて、それを内部の調整にかけていきたいということでございますので、ご提出いただいた分について、修正をかけて次の会議で最終ぐらいでお願いしたいと思ひます。

## ○委員

総論を言わせていただきますが。市民にとってもわかりやすいこの環境プラン、環境、名張市の環境教科書になれば良いと思ひわけですけども、それを前提にして言うと、本の構成が難しいなど。あっちこっち同じことを書いてるところあって、構成を上手に考えたら良いのではないかと。例えば、各章に前文があって、項目に前文があって、しかも表の中は単語だけではなくて文章があるわけです。この辺が、似たこと書かれてるんですね。それを一番最初の素晴らしい前文をみんな考えて書いた方がいいのでは、一番最初に、というのがひとつです。それからですね、そこに書いてるマトリックスの話なんですけども、例えばこのページでいきますと、市民の役割、事業者の役割、行政の役割と。こ

れ、ものによりますけども、3者とも関わらないといけないもの、2者関わらないといけないものというものが多いと思います。ですから一番最初に、協働ってというのが書いてある。それなら、項目を書いて、事業者にかかわるものはこれとこれ、と〇丸をうったりするようなマトリックスの表にした方がわかりやすいのではないのでしょうか。これだとほとんどの項目を全部書かないといけません、一番中心になってやるのが市民なのか行政なのか、というような感じです。それで、書いてなかったらしなくていいのか、というのもおかしいのではないかと。表にして、◎二重丸、○丸、△三角ぐらいで書いた方がいいかもしれないという意味です。もうひとつは私の理解してる環境の概念と少し違うという気がしています。先程の委員さんがおっしゃってたように、あの全ての行政施策の前提に環境問題はあるべきものだと私は思ってるわけですが、それが総合政策の環境部門に係ることをやるというのは違和感があるんですけども、環境にとっては非常に重要なことですが、各項目別にですね、どうも分析的に科学的な部分に傾いているところが、重きを置かれてるところがあるのではないのでしょうか。環境問題をちょっとエキセントリックに書いておりますが、公害であるとか、昔「環境事業をやっています。」って言ったら、「ごみ集めてるんですか。」と言われたごみ問題のように、あんまり矮小化さないようにした方が良いのではないかと、後ろの方には、交通問題であるとか、食の安全問題なんかも入ってた、いわゆるしゃべってることは素晴らしいのに、ちょっと重きが、逆に言うと、水質検査が何ヶ所でやってるんだとか書くと、他のものもそこまで書かないとバランス悪いのという印象を少し受けて気になります。それから、市民地域の役割のところですが、私なんか市民委員として今日来させていただいているわけですが、この表現見るとちょっと上から目線だと。市民自らこうします、と言ってるのではなくて、あんた達しなさいよっていう話に思うんですけども、自らが発言してるように、こういう風に発言してくれたらうれしいのについていう書き方になっていきますね。なんか上手に表現する方法がないのかと、先程申し上げましたように、これ環境教科書にしようと思った時に、市民が読んで、これなんだ、私は何も聞いてないのに行政が何しなさいって書いてるのではないかと、こう思うのではないかと思います。先程の委員さんと少し意見が違うのは、環境問題、行政の責任が大きいとありますが、行政も大きいけど、僕はむしろ市民の問題の方が大きいのではないかと理解しているものですから、「あ、私の思ってること誰か言ってくれてるわ。」と思っております。新しい土地利用計画、前から思ってるのですけれど、団地の終い方っていうのをしなければならぬ。団地を終わって緑を復元する、これが書かれてないです。やまとのうちの劣化したところ、ここ書かれてますけども、書き辛いところもあるんだと思うんですけども、これです。それから、アンケートは今の時点では、あるいは、ほんの10年前ぐらいの印象で、一番近い記憶での評価しかしませんね。やっぱり今狙うべきは、ひょっとしたら数十年先、数百年先の環境のために仕事をするには、それこそ、もうちょっと長いスパンで評価しないといけませんので、あんまりアンケートに重きを置いてしまうと瞬間評価になってしまうということを、しつこく書きました。環境問題、それから概念の話は、僕は自然だけじゃなくて文化財のことも書かれてるのは、すごくうれしいです。それから地球市民のことが書かれてました。地域市民と並べてほしいですね。地

球市民と地域市民、足元からと全体。そんなことも。一番大きいのは、さっきも話したように、名張の自然と文化、結果として景色に現れるその劣化が、僕は非常に気になります。もっと名張素晴らしかったのに、そこへ戻す努力をしないとイケないのではないかと、そんなことです。キャッチコピー案 A は後で言います。

## ○委員

その中で、行政の責任に関して私が言うのは、あくまで行政がどういう施策を立てるか、それによって誰が、例えば、汗をかくのか。公と住民が一緒になる。それで、自分達でできる、住民ができる範囲と考えていますので、すべてが行政ということではないので、その方向性だとか、やはり自分たちがやることは、皆さんボランティアとかもいろいろやっておられるので、小さなことでも。その中でそんな専門的な知識がある人が少ないので、行政の指導もしくはやり方によって一緒に教育しましょう、手足を組んでやりましょうという考え方です。それとアンケートというのは確かに大切です。でも、目と目を見て、お話しして、その中で新しいアイデアが出てくる。アンケートというのは、自分たちが安心するための資料作りにすぎないというふうに私は考えます。ようするに対等に話し合っ、その中で、では何が難しいのか、アンケートも大切ですけども、そういうことも必要ではないかと思しますので、よろしくをお願いします。

## ○会長

ありがとうございます。

そこで、2人だけでなく、ここにいる方が、おそらく共通して一番大きなところで、もやもやしてるというところが、立派なものが出来ました、誰が実行するのかという時に、よく三位一体とか、一番大切な市民はどうするとか、それからいろんな意味で、資源を使ってもつくりや街づくりの予定で事業者はどうすると、そこで市民を多用していろんな責任と権限で仕事していかなければならない行政はどうすると、そういうところの部分が第三次快適環境を作成する為に、文章では書いてあるんですけども、ビジュアルで見るとないんですよ。例えば、第二次の時にはかろうじて、三位一体に近いような絵が描いてはあるんですが、今回第三次では、その分がページの制限もあつたりで、最後にどこに落ち着かせるかということで、この図がない中で、一番後ろにどういう推進体制にするのかということが1ページで終わってしまって、若干物足りない。誰の為っていうことになった時に、ここが皆さん、一番もやもやするところだと思いますので、この部分よく書かれているのですが、ただみんなここ2ページを見ると3つのセクターというかファクターというか、その矢印が両方にあるのはよかったです、参画協働なんですよ。参画協働することもあるけれども、支援をするところもあれば、

## ○委員

マトリックス

## ○会長

そうです。そこ、さっき委員さんがおっしゃったマトリックス、それがまた難しいマトリックスではなくて、ほんとに単純でいいから、参画協働ばかりしたらだめなんです。誰かが法的拘束力を持っているものをきちんと作らなければならない。これが行政の役割なんですね。だからみんなよしよしっていう形ではなく、ここに、市の責務、みんな市民の責務、事業者の責務っていうふうになってるんですが、結局プラスになる場合もマイナスになる場合も、幸せになれて幸せ感じるのも、いろんな場面で市民が一番あれになっていくわけでありますので。ここに幸せ感じさせるようにしていくのが市の最大の責務というか義務ではありますので、そこがみな参画協働ではないだろうか、例えば何々を実行していくんだとか、何々っていうのを設定していくんだとか、企画していくんだとか、そういったところで、この部分を膨らませて、我々が議論しているところになるように、この部分をどこにいれるのか考えないといけないのですが、この部分が抜けているところをやっていきましょう。それからもうひとつが、今も二人の委員からも前回も皆さんから出てきているのが、正直に言って我々の快適環境プランというものは、市の一番最高のところにある計画ではないんですね。それは総合計画なんですよ。総合計画の中にあらゆるいろんなものがあるって、そこに環境、我々がこういうふうやっていく、と。その根拠が条例であって、それがあって、権限をもって対応でやっていくわけでありますので、第二次の時に比べて今回よく出来ているのは、だいたい平成4年からですね、それから平成19年、まあ日本にとっては平成23年の東日本大震災もそうなんですけども、それから基本計画が閣議決定して平成24年、あらゆるものがある中で、名張市は環境に関するいろんなものを作りましたよというのを、とてもありがたいことではあるんですが、ただこれを書くには覚悟が必要なんですね。何が成功して何が失敗したの、何がどうなったの、ということきちんとやれる覚悟があれば、ここにきちんと書くのはいいんですけども、例えば、ちょっと山越え、東にいる私から見ると、名張は本当にもったいない。例えば今ここは環境なんですけれども、ごみゼロとか名張はいち早く皆さんとやってたし、「スマートシティなばり」も大きく強調されてるけれども、名張が一番最初って言っている程だし、それから再生可能エネルギーに関してもそうですし、男女共同参画は人間環境から考えればそうなんですけども、みんな名張が一番最初旗を振ってるんですけども、何年か経つと、えーってところで終わってしまう。もったいないところがあります。それは別に私が意地悪を言うつもりは全くなく、もったいないから。これだけのことを書くということは、ちょっとこう文章を選ばなくてはいけませんが、ここをきちんと何ができて、何ができていなくて、その理由は何だとか、そういうことをわかってやっていくと見直しができるんですね。何回も申し上げてるけど、完璧なものを作ろうと思ったら何年かかっても不可能ですし、我々だけではとてもできないので、幸い、見直しをかけていいものを書いていくということは、国も同じですから、そういうふうここに一番大事なところが出てきて、誰がやるのというのが出てきて、こういう名張ができるんだよというこれ第1章のところで勝負をかけないと、各論に入ってくると、ダメでしたっていうのはその時にまた見直したらいいので、やっぱり魂入れる作業を前文とかそういういい言葉が今二人のところから出てきたんですけども、ここでもう少し言います。それで、1ページに

世界の流れと県の流れがあるのですが、名張市では、となってるのですが、あまり長くは書けないけれど、何年に何をやったという歴史は流れているんですけども、それでどうなった、それで何が出来なかった、そういうことをどういうふうにもう盛り込むのか、みんなそれぞれの、自分の役割を果たすことになりますので、時間をいただいて良かったので、この1ページのところの部分を、もう少し力を入れて、万が一名張に何かあった時に、名張のみんなの責任になるのであって、国がなんとかしてくれてるわけではなく、県がなんとかしてくれるんでしょけれども、結局、名張の皆さんがやらなければならないこと考えると、我々はここまでやったんだと、だけれども、中々うまくいかないのだと、けど、またやるんだというのがわかるような書き方を、少し入れることによって生き生きとしたものが見えてくるし、ここに、何プラン何プログラムがうまくいってもいなくても、でもやってるよ、というような部分が、やらないよりやった方がいいですよ。本当に。それで、そういうところのものができて、3のところ、計画の期間じゃなくてここに、もしあれば、誰がやるのということをもうちょっと入れて、それから、ページはちょっと後ろになるかもしれないけれども、考えてみませんか。そうなってくると、イメージがわっとこう浮かんで来て後は、目標5つのところやっていくんだということで、格好よくなっていくと思いますし、最後のダメ押しなんですけれども、最後のところでこの推進体制とか、これがちょっと1ページ弱いような気がしますので、もし、この部分を別の形で、市の責務、何の責務ってするのだったら、若干文書化してるようなものに、後ろに1ページぐらい作ってやっていけば締りがピツとなるのではないかという風な気がしました。私何回も言ってるんですが、なんかもやもやがなんだろう、何が足りないんだろうって思った時に、みなさんありがとうございます、お二人のご意見があったから、勇気をもってちょっと言えるようになったんですけども、どうでしょう。

## ○委員

今、先生のおっしゃった中で、名張全体としては、新しい方でその中で、やはり市民全体の責任の問題になります。行政の責任だけではないので。このプランを作ったのが、ある意味では自分のことも考えてやっていかないと、やはり格好だけよくて、中身が段々。1年目はいいです、2年目3年目、今先生がおっしゃられたような、多分、そういうふうになると。これをまた行政批判するようで申し訳ないけど、いろんな名張市の施策はあります。その中で住民協働を、という名のもとに、住民の皆さんやってくださいよと、各福祉でもなんでもかんでも、すごくあります。それで、最近、特にそういう傾向が多いし、当然のことながら、少子高齢化の中で、やはりそういうことも必要ということはわかっているけど、ある程度限度がきてるんですよ。と言いますのは、当然地域によっては若い人も参画してやっていただいているんですけど、やはり定年65、夫婦共稼ぎの中で、では、どこまでお手伝いできるのか、ということも踏まえてやはり慎重にやっていかないと、計画やそれは立派であっても、では、中身はついてこないという恐れがあると思います。消極的な話で申し訳ないですけど、では、どういうふうにしてそれを、今説明いただいたように、やはり、いい悪いをはっきりしてその中で今後の計画にしていけないと、表には名張市がよくなったと、どうして、このプランだけがよくて中身が無かったらどうしようもないの



で、その辺を私もいい考えは無いのですが、みなさんの中でいい考えを出していつて議論したいと思います。

### ○会長

はい、ありがとうございます。みなさん、いかがでしょうか。この第1章で勝負をかける。魂を入れる作業を、イメージが大事なのですが、第1章のところは落ち着くと、第2章のイメージが、望ましい名張の環境がどういうものになっていくところが落ち着きますので、どうぞ、おっしゃってください。

### ○委員

第1章ですね。私、素晴らしい前文を書こうと言ったのは、まあ確かに一番最初のところで、背景とかはもちろん後で書かないといけませんけど、一番何を狙っているのか、何をしているのか、今現状どういう方向に動かしてて、どこへいくんだという気迫、会長が多分、おっしゃったのは気迫がないということだと。気迫のある文章を誰が書くのだという話もありますが、それを書かないといけないという点を僕最初の前文に素晴らしい文章にしたいというのは、ここのことです。それからその1章の2つ目のね。

### ○会長

位置づけですね。

### ○委員

はい。それでその絵が3つ、3行出てるんです、ごみゼロと目指すところでしょうけども、ここもさっき言った僕の理解している環境問題から言ったらいかにも矮小化されてるんじゃないかというところで、私は、ここでは美しい景色というのがどうしても入れていただきたい。

### ○会長

すごい、いいじゃないですか。

### ○委員

最終はそこへいくんだ、ほとんどここに書いてあることは、美しい景色作るためのものなのだと思いますので、そういうものになって欲しいです。

### ○事務局

その美しい景色というのは、ここで示しているのは、言葉ではなく、計画の中で、例えば環境像ですとか、今おっしゃっていただいたような部分をいれていければ、というふうに思いますが、ここの位置づけの部分については、それぞれの関係する計画で実際にその他の分野別計画の中でですね、公開しているということでご理解お願いしたいと思いま

す。

### ○会長

名張市総合計画 新・理想郷プラン。これが今年ですね。もともと総合計画というのは、将来的な総合計画ですから、細かいところは、それぞれの分野が作るということで、いいと思うのですが、この理想郷プランの一番目玉になるのは、いくつかあったのだと思いますが、ちょっと私まだ新・理想郷プランを見てなくてですね、申し訳ないですが、そこに例えば地域活性化、地域創生っていうのでしょうか。そういういろんなものがあつたのだらうとは思いますが。

### ○委員

私、総合計画の方の委員をさせていただいていましたので。とにかく、人口対策で、若い人の就業者を割ってこようというのが、なんとかしようというのがそれがメインです。

### ○事務局

それに加えて、定住、それから、元気創造、まあよく似た部分ですけども、産業とかで、名張市を元気にするという事は、定住していただくということです。

それから生涯現役ということで、みなさん働く、また働くだけではないですけども、いきいきとした生活を送っていくっていうふうなのが、3つの重点戦略。

### ○会長

なるほど、若い人ですね。

### ○委員

僕は1回目にも言ったんですけど、総合計画の委員で非常にストレスを残したっていうのは、総合計画を考える時の前文にはあるのかどうかわかりませんが、時代状況いうのかあの時代が大変な時期になってるっていうのが前文にもありましてね、状況は激変してる。なのに、環境像の目指す像のキャッチコピーは、まったく一緒。

### ○事務局

豊かな自然。

### ○委員

豊かではなく、最後に「名張」がついたんです。どこの町かわからないではないかと私が言ったら、では「名張」とつけようかって言われてがっかりしたんですけど。

### ○事務局

ですから、豊かな自然と文化につつまれて、誰もが元気で幸せに暮らせるまち名張って

いうキャッチコピーです。

### ○委員

それ前回と変わってないです。名張がついただけです。

### ○事務局

まちづくりの基本目標が5つあって、その中の一つに、美しい自然に囲まれて家庭に暮らせるまち、という中でですね、地域環境、環境の負荷が少ない社会の創造、安心で安全な街、魅力的な都市環境、で、快適な生活環境、で5つ。それが、その部分がこの部分。

### ○会長

ここですね。

### ○事務局

快適環境ですから狭い意味の環境だけではなくて、まちづくりですとか、安全安心とか、というものも入ってる。この5つの基本目標の中の一つ。ということになります。

### ○会長

なるほど。では環境が5つの柱の中の一つとしてきちんと位置付けられているということですね。わかりました。時期が来たらどんな計画であろうと、新しく見直しをするなり、1次2次3次4次といくんでしょうけれども、若干ちょっと時期が早かったかもしれないですね。一日一日が最近のように目まぐるしく変わっていく中で、どこに合わせても中々、大変というところもある中で、おそらく、総合計画が出来て、環境もちょうどいい時期にきているので第三次という形になっていたのだらうと思っておりますし、総合計画は先に出来ると非常に我々ありがたいのは、そのアンケートとかを2重3重にやらなくてもたいてい基本的なものが見えてくるので。そこちょっと薄くなっていくと我々が厳しい。そういった関連付けがされてきますので、大変な中で作らないとなりません。

### ○事務局

実際の策定ということになりますと今年も明日、明後日の議会でということになるわけですが、また我々もその意見を加えさせていただきます。

### ○委員

それは、その中で議会をやってようが通ってまいが、その快適環境プランとではどう連動しているのかというのはみんなが知っておかないと、進めようがないではないですか。

### ○会長

はい、そうなのですが、時には総合計画を上回る内容の実行計画等が基本的にあって良

いのです。そういう風にして揺さぶらないと。マスタープランとはそういうものですか。今の説明で、きちんと落ち着いたところは落ち着かせている設定なのかという気がするんですけども、そういうものの中で、私達としてはこれを一応、目標年度は2026年、平成38年までいくわけでありまして、今2016年だからとりあえず厳しい中で10年先を見込んだもので、見直しをこう、真ん中あたりでやっていくのだとしてもですね、ちょっと時代遅れだとか、ちょっと緊迫とか緊張感がないということになると、この審議会、何やっているんだろうということになりますし、名張市にとって不幸なことですので、知りたいと思っていました。望ましい環境像で総合計画でうたっている、そこをもう一度、ちょっと。ここは使えないんです。なんという、新理想郷のイメージはどうでしたっけ？自然豊かで？

### ○事務局

将来像で。『豊かな自然と文化に包まれて 誰もが元気で幸せに暮らせるまち名張』

### ○会長

『マチ』は『まち』ですね？

### ○事務局

はい、ひらがなで、『まち』です。

### ○会長

これが理想郷になるんですか？理想郷！これは素晴らしい。

そしたらですね、皆さんはこの新理想郷プランの環境のところ、目を通してください。

### ○委員

まだ誰も。誰も知らない。だからおかしいと言ってるんです。それだったらこの会議でも最初から案でもいいから出しておかないと。連動しない。してるかどうかわからない。

### ○事務局

ということであれば、案であれ何であれ、見ていただくということでお渡しして見ていただいて、委員さんからのご意見をお願いします。

### ○会長

幸い部長が時間が少しあるとおっしゃったので。一番私が怖いのは、数値目標なんです。この数値目標が例えば基本計画の時から一年経つのか、今私たちが作っているのが実際ある中で、この数値目標がどういう基準で数値目標をたてていたのか、それ私たちがそのまま持ってくるのか、さらに野心的なものをいれてやっていくのか、こちらは野心的に入れたいのですけれども、いろんところで作るけれども、とんでもない目標値がある場

合があってですね、それは恥ずかしいなと思うところもあるので、それはうちは少し変えてもいいかと思います。

### ○事務局

はい、数値目標についてはまず、この総合計画理想郷プランにあるものは連動させておきます。実際来年度の策定ということで、変えられるものについてはすべて差し替えていくという風な形で考えております。

### ○会長

ぜひとも、連動させていただきたい。と思うのはですね、うちは最初 COP21 で、低炭素社会作るということになってさっそく曲がりながらも、政府は 2030 年までに 2013 年に比して 26%減らすというんですよ。それで、こちらを見ると、今、例えば市に関係しているところはですね、二酸化炭素がですね、1 万 2 千 789 トン二酸化炭素、それ 4 年後にもね、1 万 2 千 277 トン、ほとんど減らさないんですよ。これが先だったからちょっとかわいそうな面はあるんですけども、すでに合わなくなってるんですね。

だから、そこはこちらもあんまり数値ということより、回数を増やすの、人を増やすのそういう風に数値をうまくやっていって、二酸化炭素とかややこしい、大変なものの数値はあえて入れなかったりするのですが、どうして 4 年、いくらなんでも 3 年 4 年後に、ほとんど減らさないということをよく理想郷で書きますね、ということでして、これあんまりにも情けなという感じがして、あえて書いてない方がよかったんじゃないの？ということです。国や世界の動向等を見て、調整しますとかね、逃げ道でも作っておけばよかったのですが、これまず合わなくなっています。合わなくなっているのか、これ、何パーセント減らすことになるのかな。12789、12277。

### ○事務局

はい、それで、理想郷プランにつきましても、3 年毎に見直しをかけていきます。

### ○会長

3 年とおっしゃらず、早速。

### ○事務局

見直しの方も、総合計画ですので、単品単品というわけにはいきませんが、必ずその時点では、見直しをかけていきますし、うちの方も、そうしていかないと、今おっしゃるように現実離れした話になってきますのでね。

### ○委員

私、数値的なことはわかりませんが情報はやっぱり書いてきちんと入れておかないと。

## ○事務局

わかりました。送らせていただいて一度見ていただけたらと思います。

## ○会長

そうしましょう。環境マネジメントシステム、こんな簡単なものが18なのに、3年4年後に20、二つしか増やさないのではね。これは少し恥ずかしいです。だからこれは使いません。この数値は使わないで、別の言い方、切り口を書いていきましょう。バルブを上げて失敗するのもよくないけれど、今18なのに4年後には20しか上がらない、2つしか増えてないのですね。1年に0.5、やるかやらないか振り回されて、2年後に1つ、また振り回されて0.5、1年後に1つ、それはBOOKに出すには耐えられない。でもまあ、それはこれで一旦してください、おっしゃられるように、時代の流れで切り替えてやっていって、ちょうどこれがまたその次、すぐ出てくるから、具体的なところは我々がアクションプランは、こうだからと言えば、ここもこちらもいけるということになっていきますので、もしそうだとすればですね、これを貸していただければ、早速読ませていただきますが、やはりここで書いてある以上、結局我々の第3次のこのプランでどんどんやっていくぞ、というようなことは庁内でも調整していただければ、大変ありがたいです。ならばこのところの部分をもう、企画・実行、とか、そういうふうな形に、少し変えて入れましょう。普通に、企画・実行・実践はいくら書いても悪いことじゃないので、そういうふうにしてやるぞという形にさせていただきます。

各論はいくらでも、書いて悪いことではありません。マイナーの方向ではありませんので。ただ前文とかが毎回変わる訳にはいくらなんでもいけませんので、揺るがないひとつのピシッとしているようなものがあって、ビジョンがあって体制があって、今が3月の下旬でありますので、4月の年度始めとなり、大変だと思いますけれども、丁度これも議会を通して確定という形になるのでしょうかから、それを私達が見ながらですね、それで、魂入れる作業をやっていくということで、5月には、連休明け？あるいは、例えば末までということ、この審議会を連休明けに行うということによろしいでしょうか。

## ○事務局

わかりました。

## ○会長

第1章、第2章だけでなく、みなさん、例えば、名張というところから環境というものを理想郷プランの、豊かな自然、それから『文化に包まれて誰もが幸せに暮らせるまち』、これは総合計画にふさわしいキャッチだと思うのですが、これはあまりにも良すぎてしまって、具体的に何をやるの？というのをこちらが決めていかなければならないので、委員さんからキャッチの案が後に、とおっしゃられたんですが、言っていただけますか？

## ○委員

はい、言います。Aに書いてるのは、今日はAだけでまた出しますけども、これ、キャッチになってないですが、言いたいことは、こういうことです。『紀伊半島の上流部、へそに位置する盆地。日本国土の自然と文化の環境生産・環境の自給自立モデルを志向する町名張』。日本のモデルになろうではないか。環境問題の。環境は消費するものではなくて、生産するものだという、それをモデルにする。しかも、先程言いましたように、日本一律でこうやろうというのではなくて、この名張という紀伊半島の真ん中っていう水源都市でもありますし、その辺でのモデルを一度作ってみて、他の町に真似してもらおうかというぐらいの意気込みを持って、私がしきりとこだわってるのは、一度失った自然を戻すことの大きなモデルになると思いますので。あるいは団地の終い方を考えるっていうのも、大きな今後のモデルになるという、そのぐらいの勢いで一度やってみたらどうでしょうというぐらいの我々の姿勢みたいなものを書きましたので。

#### ○会長

ありがとうございます。

#### ○委員

『環境生産』っていい言葉ですね。

#### ○会長

キーワードを拾いたいと思いますので、みなさん、ザックバランに。まとまったキャッチではなくても、キーワードとして提案をしていただけたら有難いですが、いかがでしょうか。ちなみに、第二次の快適環境プランのキャッチは、『こころなごむ清流のまちなばり』でした。

#### ○委員

前のプランに、とやかくいうわけではないんですけど、心和む、なんて書かなくても本当に良い清流があったら黙って和むやろという。私の言いたいのは、盆地、非常にこだわってるキーワード。流域のひとつの小さな単位、最上流って言わなくても、という単位。それは文化の違いも、そこらへんの山と少し違う、伊勢と少し違う暮らし方っていうことです。それをどう表現するかは別にしてですね。

#### ○会長

自然と文化の環境生産と、非常にチャレンジ的ですね。なるほど。

#### ○委員

朴先生前から、快適環境ってすばらしい言葉だと。私、個人的に言いますと、おそらく40年ぐらい前だったと思うのですが、大阪府が快適環境シンポジウムを千里でやりまして、関係者しか入れないが、私は特別ルートで入れていただいて、すごく違和感がありま

して、快適環境って、いいところだけ取ろうみたいなニュアンスで厚かましすぎるのではないか、ここで再びこの会に参加させていただいて、快適環境とありましたので、最初から少し違和感がありました。良いものだけもらおうか、ではなく、そこへ責任をもって少なくとも使った分だけは戻す、ぐらゐの姿勢が必要では。環境にはそういう姿勢が必要ではないかと。

### ○会長

名張はどなたが考えるのか、理想郷とか、素晴らしい言葉をよく持ってきますね。

### ○事務局

理想郷は亀井市長、快適環境はその前の富永市長ですね。

### ○会長

市長さんはみんなキャッチが上手ですね。

### ○事務局

第一次の快適環境プランができた時は、右肩上がりのバブル、後期に入っていたかもわかりませんが、ということで今の右肩下がりになるということは考えられなかった時代だったんですね。ですから快適環境プランについては、当然、快適環境条例という条例がありますので、冠を変えるわけにはいかないと思うんです。ただ、時の流れの中で、その快適というとらえ方ですよ、ちょっと前であればロハスだとか、今はもう再生可能っていうもっと厳格になってますけども、そういう捉え方をしていかないと。

### ○会長

そうですね、92年ですよ。すでに基本条例がそういう名前になってるんですね。

### ○事務局

冠は変えられませんが、内容自体は、当然時代時代に合ったものに変えていくべきだと思います。

### ○委員

まさしく、その快適環境を誤解されないように、前文で周辺にある自然や文化から取奪だけして快適というのではない、ということを書いて、環境を生産するぐらゐのつもりでいく環境こそが快適なんだと、言うふうには書けば全然。

### ○会長

すばらしい理屈なんですよ。うまいですね。若干無理はありますが。



## ○事務局

この計画策定の背景と主旨の部分については、この10年間、第二次の時代にどんなことをやったか、細かくは書けないとは思いますが、ここの中に挟ませていただくことが重要なことだと思います。

## ○会長

変な話ですが、中国の奥地に行くとシャングリアという理想郷があるのですよ。でもどうゆうところだと思います？私達は住めない。文明的なものは何もない。本当に自然。人間も自然の一部分。だからすごいことを、理想郷という、と思っていたのですけれども。本当になんにも無いんです。あるのは牛、牛もあんまりいないかな。にわとり、要するに桃源郷みたいなもので自然。

## ○委員

ふざけているわけではなく、一生懸命考えたキャッチコピーなんですけれど、馴染みやすいように、『人に気配り、自然に目配り、地球に心配り、なばり』。馴染みやすく、親しんでもらいやすいようにです。

## ○会長、委員

おお、いいじゃないですか。もう一度。

## ○委員

こんな難しい漢字がよく出ている中で、少し恥ずかしいのですが、『人に気配り、自然に目配り、地球に心配り、なばり』ちょっと韻を含ませたら、キャッチコピーとしては、サブでもいいので使っていただけたらと思って考えてきました。

## ○会長、委員

いいですね。

## ○会長

だから結局、同じです、根っこは。自然と文化の環境生産。使うものではなく、新しいものを作り上げるのよ、我々が、という。まったく同じですね。素晴らしいキーワードが集まると、やりやすい、考えやすいですね。キャッチに関しても素晴らしい、わかりやすい、なるほど、と思われるものと、私、まだ聞いたことないのですが、『環境生産』という言葉、そういうものをわかりやすく『気配り目配りいろんなことしながらやっていく。』というところに、どのようにしてうまく溶け込ませていくのか。一番良いのは中学生が読んでわかった！っていうのが一番成功な部分ですので、そういうことをしていくには、若干時間はいただきましたので、助かったと思いますので、ここであえてこれに決めましょ、とかそういうことはせずに、よろしいですか。いつの間にかザックバラんな話になっ

てしまったんですけれども、これもひとつの、審議会の名張ならではの面白いところですので、あんまり早く決めるようにとかおっしゃらないで、もう1回チャンスをいただければと思います。従いまして今日はあんまりいろんなこと決めない、ただ、第1章、第2章というのは大変重要なところで、それが第4章でしたかね、計画の推進のところの最後にまたもう一度締めるんだという形にして、中のところの正直に目標値はちょっと私、事務局と話しながら結構あげてます。これは絶対できそうだと思うからなんですね。なぜかという、カウントの仕方があるんですよ。皆さんあまりにも純粹で良心的な方だから、1回は1回、人は一人づつとりますけれど、延べ、それからこっちのカウントがこっちのカウントでつながるんですよ。そういった時、ダブルカウントではないのですよ。そこはカウントをきちんとすればいいという根拠をレイアウトすればいいので、そうなってくると、人って二つ、三つのところにまた気が付くのです。そういう部分をもってくれば、絶対これはだめということにはならないですね。だからそこは結構あげてるけれど、絶対大丈夫ですので、これはなんとかかなりそんな数値を出したんですが、ただ皆さんが読んでいただいて、もっと上げるかちょっと落ち着いて下げるか、考えてということも今ならまだ間に合いますので、前文が出来て、体制が出来て、各論に入った時に、これならもう少しできるのではないかという部分を、事務局がかなりいい形でたたき台をつくっていただいたものですから、そこも皆さんの意見をいただきたいと思います。

具体的には、委員の方から、事務局に3月31日までに連絡をしていただき、事務局は、まず私に連絡いただけますでしょうか。手におえないほどすごいものが来る可能性がありますので。それをどうやって整理するかっていうのは一緒に考えますし、これならリアルタイムで送りましょうっていうのならそれはそれでやっていく形で、4月中旬ごろまでにやってみたいですね。下旬に、今日みたいに新たなものを入れたもの、それからよく国連の会議でやっていることなのですが、困るとき両論で意見するんですね。両方入れる。そこから皆さんの意見で消したり生かしたりというような形で、作業に入ることがあっても良いと思います。あるいは、足したけど、それはいいとおっしゃられるなら、それはそれで良いですし。

申し訳ないけど、事務局にひとつ宿題。これ体制図、皆さんは上手なので、この部分をもう一度、さっき言った、企画・実行・支援、サポーターという言葉はあんまり使いたくないんですけども、協働とか、そういったようなことで、三位一体の関係をこのままのものから替えたものにして送っていただけますでしょうか。この図でもいいですし、四角四角で囲んで矢印につけてもいいですし、やりやすい形で、なんでも。

この部分はやっぱり必要ですよ。もしどうしても絵が描けないのであれば、行政の責務と書いてあったなら、具体的に何をやっていくの？ということを書いて、文章化しといていただいてもいいです。

これうれしい宿題だと思います。それで、我々はキャッチ考えて前文、この前文ちょっと「そのような中」の上まで考えて。もちろん行政も私も考えます。みんなで考えます。そのうち、この新・理想郷プランは決まり、決まったら私達に下さい。

## ○事務局

はい、わかりました。

## ○会長

そうしたらだいたいのことが話されてるんじゃないかと思いますが、事務局あるいは皆さんの方でまた、あともう少し時間があるので、ありましたらばお願いいたしますがいかがでしょうか。

## ○委員

第2章の2番目の環境目標ですけどね、1番と2から5とが少し感じ違うんですね。1番は取組姿勢ですね。2から5は領域分野の目標なんですけれども、これは並べていいのですか？もし並べるのなら、私は、環境課題こそ今日協働で取り組まないといけないというようなことを書くのかなと思うんですけども。1番は取組姿勢ですよ。手段。2、3、4、5との並びはちょっと違うねんけれども、一番大事なことから書けばいいですけど、横並びで環境目標の1で置くのかというのが少し違和感あります。

このままで良いのか、この1は前文に持ち込んで良いのかというくらいの重さっていうことなんですけども。

## ○事務局

前文を作っていただいても結構です。ただ、ここに書かれている環境目標の1の中に、細かいことがありますので、すべてをその前文の中に書き込むというのは無理ですので、例えば2行とか3行とか言葉の中に凝縮した中でというふうなのはどうかなと思います。

## ○委員

もう一つ、体系のところですね、一番上の環境教育のところの施策項目の一番右側の(1)、環境教育の一番下、人材育成と情報発信の充実っていうのがあるのですが、これ、市民人材の活用というのをぜひ入れていただきたいです。たくさん優秀な方がいるのですよね。専門家が。それを使わない手はないだと思いますので。これは本文の方にも入ってないと思います。下でも良いので、入ってませんので、これはぜひ入れていただきたい。

それから、生活環境の水の部分なんですけど、私、水に関心がありまして、これは、水量、水質はありますが、水量の確保の話が全然なくて、はっきり言って昔の名張の川の水から思うと、せせらぎみたいなものが大川になっていますね。あるいは最近も町づくり協議会を通じてたくさん言わせていただいていますけど、この間から、梁瀬水路の断水で、魚いっぱい、昔は堰の制度が悪かったせいだと思いますが、或は、底が砂利だった為だと思いますが、コンクリートの溝みたいになって、そこに白い腹をみせて魚がいっぱい死んでいます。これで大阪から、みんな町を見てくださいと言い、来られても、何がおもてなしの町なのか？虐待の町である。と思われるのではないかと。環境維持用水の話も含めて書

かないと。いくら水質がきれいでも、1滴しかなかったら話にならないのではないかと私は思いますので、水量の話ぜひ入れていただきたい。水量の話はどこにもありません。本文にも。ですからね、その手段はどうするかはもうあって、目標に無いのかというのを私は言いたいです。

### ○事務局

そうですね、水量というのは、正直なところを申し上げて、いろんなもののトータルになってますのでね。どこへ入れていきましょう。

### ○委員

私は質よりも先に量があるべきだというふうに思っておりますが。もうひとつは水関係でいうと、良好な水循環の確保、というのは資源循環型なんとか社会と書いているもの、あれは私は資源循環と言っていいのか、廃棄物循環型社会と言ってもいいのではないかと考えているんですけども、まあ、良好な水循環の確保っていうの、これをぜひ書いていただきたいと。水項目の中には、本文にも一切触れられておりません。

### ○事務局

田んぼ。…というような形で少し考えさせていただきます。確かにあの、水循環っていう言葉はよく使われますからね。

### ○委員

節水がありましたけど、その一つの手段だと思うんですけど、雨水利用は入れていただきたいというふうに思います。

### ○事務局

実際どうなんでしょうか。

### ○委員

いやいや、山の土地だったところで畑をしているところとか全部雨水ですね。その視点、水循環の視点のうちのひとつですよ。たくさん言いましたけど、第2章の私の意見はそこまでです。

### ○委員

少し教えていただきたいのですが。水量を、どういう意味でおっしゃったのか、ちょっとわかりません。申し訳ないですがもう一度ご説明を。

### ○委員

簡単に言いますと、常時の水が豊かでありたい、ということで、大川で言えば、ダム

操作で、台風のような日に完全に落としてしまって、名張の川へ行ったらガラガラ。水無し。あくる日晴れた日に川見に行ったら、橋げたの下まで濁流が流れている。環境教育って子供にこんなもの見せといて、教育にもなりません、というのが私の考えです。ダムの水操作であまりにも日々の変化が多いというのは、いかがなものでしょうか。それはダムの悪口を言ってるのではなくて、ダムだけではなくて、梁瀬水路が川掃除で農業水路優先、川掃除しないといけないのは当然だから、少なくしたら良いのだけど、どうしてゼロにしないといけないのでしょうか。

### ○委員

水量についてはわかります。水量について私が思ったのは、要するに山林のことを言われていたのかちょっとわかりません。今はダムの水調整のことをおっしゃられていたのですか。

### ○事務局

おっしゃるとおりです、私が思いましたのは保水の思いです。ですから同じように雨が降っても、昔はもっと川の水が流れていました。ダムの中にもありますけれども、それだけではなくて、やはり水の量が夏場でも流れていました。ところが今はもう、雨が降るとどっと増えるんですけども、すぐに今おっしゃったように、水の流れがぐっと落ちてしまいます。これについて過去の豊かな水の流れを考えた時に、行政としてどうしたらいいのだと、本当にトータルの部分だろうと、いうなことでお話をさせていただいてるのです。

### ○委員

後半の部分は良好な水循環。どうして雨水入れるような下水道にしたのだとかです。そのようにして水循環も何もないだろうと思います。それは水循環の方で言いましたけれど、いずれにしろ水量、水の町にするには、ということです。

### ○会長

その他にないでしょうか。

### ○委員

細かいことでもいいでしょうか。農産物の地産地消のことを、その部分を。32 ページ、農地の保全のところで、現状と課題の中で、地元農産物の消費拡大、地産池消を促進するというふうな方向付けをされておりますので、その部分のところの市民・地域の役割なのですが、これが消費者の視点から関わるというような部分についての記載であると思いますが、このあたり、市民の側からも地元農産に対する理解や消費拡大に努めます、みたいなのところがあっても良いのかなと言うふうに思います。その、地産者が一体となる行政ということです。

それとですね、県の方もいらしてるのでお話も聞きながらですが、38 ページの、昔から

割とよく言われてるんですが、マイはし・マイボトル・マイバック持参のことなんですけれども、皆さんご存知だと思いますが、割りばしというのは、実はずっと間伐材利用として非常に有効なものでした。ここでは、おそらくごみの減量ということの視点からマイはしの推進というふうに書かれてはいるんですが、一昨年、県の方とお話した時に、県産材で作られたこうゆう杉のお箸を配っていらっしゃって、これは良いなど。こういうものを身近に使えると良いなというふうに思いましたので、その、マイはしということ、割りばしということではない、ごみの減量ではないんですけれども、そのへんの記載を、どうなのかと思いましたので、皆さんのご意見を聞きながら見ていきたいと思ひます。

それともうひとつですが、44 ページのところ、先程お話がありました地域資源を活用したエネルギーの創出ということで、名張にはたくさんの優れた方がいらっしゃるっていうお話、委員さんからもありましたけども、小水力をされてる方も私存じあげてるんですが、そういう意味でそれぞれの例えば団地だとか、そういうところですね、水のお話もしきりに出ていますけれども、赤目の方で小水力発電をされてるっていうふうなことも聞いたことがあるんですけども、そういう可能性というか、具体例がありましたら教えていただきたいということと、それがもしかすると水の町名張に関して、私たちが取り組むことができる、再生可能エネルギーの、また地域資源を活用したエネルギーのひとつでもあるかもしれないなと思ひましたので、ぜひそのへんも教えていただきたいと思ひます。以上です。

## ○会長

ありがとうございました。

## ○事務局

まず、最後の小水力の話ですが、私もその赤目のことについては、またこれ終わったら、確認させていただきます。

## ○委員

すみません、赤目ではなく、青蓮寺です。

## ○委員

それに関連してですけども、第3章のページ、市民協働のところですね、行政の役割で一番していただきたいのが、市民とか民の団体とかがいろんな環境活動をしていますね。これの拾い出しを情報公開する。交付金ではなく、情報の公布をしてもらおう。これはやっぱり行政の仕事ではないかと思ひます。その関連の発言で、地産地消の話がありましたが、本文に書かれている、材木のね、地産地消、積極的に、農業のことを書かれていますけど、2割3割と並べて書いてもらわないというふうに思っています。それとマイはし・マイボトルですが、私はマイちょこまで持ってるんですけども、あれは資源としてというより、所作の美しさになると思ひますよ。ソーラーパネル、あれは環境にとって良いの

か悪いのか、エネルギーがああ景色になってしまっ、名張を誰が見に行くのか、という話もありますので。文化へね、所作の美しさ、経済成長には反比しているかわかりませんが、文化成長になるんだらう、という意味でマイはしを持つことも良いだらうと思います。もっと間伐材のはし、ずいぶん利用はされてますけど、吉野はずいぶんひかれてますけど、もっと肝心な柱を使ってください、というところだと思います。

## ○事務局

これは 33 ページのところ、地元産の活用については書かせていただいています。

## ○委員

私が言ったのは、書いていただいているということは、読んでいますが、農産品に比べて書き方の程度が違って、農産品が 10 年後に名張産のもの内、利用率が 40 パーセントということ、これ何か変ではないかと。もっと低く書かないと。こういうのだったら木だったら 10 パーセントもとどかないと思います。

## ○委員

少し戻りますけど、小水力で、例えばその団地の中の水路みたいなもので、例えばつつじが丘だと、真ん中にすごい急斜面の排水路があるんですけど、あれを使った水力発電、小水力発電というのは可能なのでしょうか。ちょっとした水路があればできるっていう話ですね。

## ○事務局

常時、定量の水が継続して年中流れてるかどうか。大雨の日は多くなったり、逆に少なくなった時に不可能ですね。

## ○委員

技術的に可能なのか、水利権が要りますよね、大きな川は水利権があるから、新たな水利権も普通は中々難しいです。水利権の要らないような川だと、今おっしゃられたように、渇水期には水が無いものだから、たぶんそれは元がとれないから、非効率で誰もやらないと思います。

## ○事務局

発電出来るか出来ないかの話ですと、できるという話になるのでしょうか、では、実際それである程度やっていけるかというところちょっと難しい。それは雨水の排水路ですね、という気がします。

## ○委員

ゆくゆくは地域の自家発電みたいな、そういう発想がこれからはあったほうがいかな

と思います。

## ○委員

実は排水路の水力発電の大きなネタになっているのは、下水処理場なんです。そこから電気をとっているという話です。

## ○事務局

ある程度の水量は確保できますからね。

## ○会長

今、これだけエネルギーに関して、環境問題の究極のところはエネルギーかもしれないと思っている中で、バイオスタウン、構想なばり、結構早い段階から出てきているものが、言葉は残っているけれども、具体的に、そういうのも出てくると面白いかなというふうに思いましたので、みなさんは非常に市民の目線とビジネスベースになるかならないかは別にして、自然の有効活用ができるのかというところでは、いろんな意見が出たということは、一度みんなで揉む必要があるのかもしれないですね。そういう意味ではありがたいので、どんなに小さいことでもいいからまたありませんか。

そしたら、各論に入っている部分もまだまだ間に合いますので、意見をいただきたいと思います。最後に私の方で、第2章の目標、4ページ、ここについて、なるほどと思っていたのですが、だいたい環境目標は3つでいいものなんです。見てると例えば、環境目標4、環境負荷の少ない社会創るんだというところで、ばらしてですね、低炭素社会とって温暖化、エネルギー、いろんなどころの部分でやっていく。循環型社会とことで、資源もなんでもとにかくまわしていくというような、これは経済と環境の循環でもいいですし、廃棄物でもいいですし、とにかくまわしていくと。それから、自然との共生という部分で生物多様性守ったり、いわゆる昔のナナコガイとかそれはありませんよという形で大きく3つの柱が出てきて、そこに最近3.11以降、命を守る安全ないし防災なんとかというような横の軸になっていくと。そこで一つ目標は完成なんですけれども、実は第二次を作るときに強くいって、目標1に「誰がやるの?!」というところを普通が一番最後の大きな柱を背負って行く人としてのものとしかやってないところでは、誰がやるのというのが見えないんじゃないかということで、オーソドックスなやり方で環境意識云々という協働、コラボという意味で一番前に持ってきているんですよ。その部分では、教育というところで、これは今、環境教育となっていますが、本当はここでESD、要するにサステイナブルな社会創るためにみんなが学んで、学びと成長をやっていくんだよとことだったんですね。これを環境教育だけにしてたらちょっと狭くなっている感じがするので、ESDですとか、持続可能な社会を創るためのみんなの学びと共有とか、成長とかそういう言葉を書いても全然問題ないと思っていますので、委員さんが指摘されたように、違和感があるのですよ、確かに。目標1、2、3、4まではわかりますと。具体的な目標もあったり、アクションもみえるけれども、でも1はみんながやってる体制論でしょと。それから



一番最後の命を守るのはどこにもない、軸が横になるんでしょっということ、その通りなのですが、あえてそういうふうになっているのは、名張らしさ、市民が主役ということと、死ぬまで学んで成長するんだということ、快適という言葉は簡単ではないので、どのように快適するのかと、環境づくりはなんとかかなるけれども、快適かどうかは、私が考える快適と、委員さんが考える快適、全く同じだとは思わないんです。立場が違ふと変わるみんなの満足度をどのようにして高めるのかということしている時に、みんなが主役になるしかないでしょ、という部分を前に持ってきたから違和感があると思うのです。けれども、そこが第1章のあの絵が無くなったものですから、違和感が違和感を呼んだと思うので、これが落ち着くと、これをもう一度読んでみると名張の素晴らしさがそこにひとつ評価されて当然ですし、ここは差別化したんですよ、他の市町の環境基本計画なり、アクションプランに無いのです。みんな後ろです、後ろ。

普通は2時間ですが、2時間半近くになるのですが、これでそろそろ終わりにしましょうか。どうしましょうか。

### ○事務局

はい、ありがとうございます。もう時間も2時間半、本当に熱心にご審議いただきましてありがとうございます。今日のところはよろしいでしょうか。

### ○会長

はい。ありがとうございました。